

緩和ケアだより

平成25年度 第1号

緩和ケアセンター長に安藤先生をおむかえしました (*^-^*)

このたび、4月から緩和ケアセンター長を拝命しました安藤秀明です。秋田大学出身で、9年前まで大学から中通総合病院へ赴任し、2010年からまた、秋田大学に戻ってきておりました。緩和ケアに関しては、以前大学に在籍していた時から、胆道癌患者様を多く担当し関わっておりました。当時、胆道癌は進行症例が多く、切除困難な患者様や術後再発した患者様もすべて、大学で関わり、病棟スタッフの方々と、多くの看取りを経験し、これを外科系学会などで発表しておりました。



2004年に中通総合病院に異動した早々に、緩和ケアチームを立ち上げ、緩和ケア外来を開設しました。患者様は、胆道癌や消化器癌のみならず、脳腫瘍から、肺癌、乳癌、婦人科癌、泌尿器科癌、原発不明癌、小児血液癌患者様とありとあらゆる疾患・患者様と向き合い、多くのことを患者様から教えていただきました。

4月から大学病院で緩和ケアを担当し、病棟から依頼のありました患者様を中心にかかわらせていただいております。大学病院では、これまでも増して専門性が高い診療が多く、また、日々勉強をさせていただいております。入院事例に関しては、専任看護師の三浦京子を中心に、身体所見のアセスメントのみならず、患者様の自律性と価値観を尊重した対応を心掛けております。緩和ケア外来は、専任看護師の佐藤圭子を中心に、患者のみならず家族の思いも尊重できるような体制を目指しています。

診療以外にも、緩和ケアの普及のため、院内研修会や秋田県がん診療連携拠点病院としての機能を果たすべく、他の拠点病院との連携を始めました。

さらに、今年は、がん対策基本法の見直しに伴い、地域のがん対策も改訂されました。厚労省からは、5月にがん診療拠点病院における緩和ケア活動の指針と緩和ケアセンターのあり方が公表され、現在は、これに基づいたがん診療拠点病院の見直しが議論されています。厚労省の提言では、今後の緩和ケアセンターに対する要望として、①緩和的緊急入院病床の確保、②看護師外来の開設、③コンサルテーション型緩和ケアチームから介入型緩和ケアの提供、④ホスピス病院、居宅介護施設、療養施設との定期的連携会議の開催などが求められております。

このような、大変革期に緩和ケアセンターを担当することになり、心配もありますが、どうか、皆様のご協力のもと一歩ずつ、患者様・ご家族・医療スタッフが満足できる緩和ケアを提供できるよう努力してゆきたいと存じます。

お知らせ

- 今年の3月よりオキシコドンの注射剤であるオキファスト注が院内採用になっています。
投与量換算の目安：オキシコンチン錠20mg/日≒オキファスト注持続15mg/日
- 現在、疼痛管理ポケットマニュアルを改訂中です。6月末に新しく第6版を配布予定です。お楽しみに(^-^)